

2018.12.1 第1203号
ISSN 0913-0217

発行人/長 瀬 清
編集人/山 科 賢 児
発行所/北海道医師会
〒060-8627
札幌市中央区大通西6丁目
TEL(011)231-1432
FAX(011)221-5070

北海道医報

2018
12
月号



北海道 美の遺産

酒谷 小三郎

時計のある静物

北海道立函館美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
平成30年12月1日 第1203号

指標／北海道における地域枠制度の現状と医師需給、偏在を巡る問題について……………	小熊 豊……………	3
医の倫理綱領……………		7
報告／北海道医師会創立71周年記念行事を開催……………		8
報告／平成30年度医師の勤務環境の整備に関する病院開設者、 病院長・管理者等への講習会……………	藤井 美穂……………	9
日医報告／第40回産業保健活動推進全国会議……………	生駒 一憲……………	10
専門部から／平成30年度修了申請ならびに平成31年度からの 「日医かかりつけ医機能研修制度」取扱いについて……………	櫻井 晃洋……………	12
生涯教育シリーズXXII／ 遺伝医療・ゲノム医療 「遺伝医療・ゲノム医療」の特集にあたって……………	櫻井 晃洋……………	14
報告／北海道医師硬式テニス大会……………	八木 知徳……………	16
税務相談室／必要経費の意義 その1……………	中村 孝一……………	18
医師のための法律相談コーナー／基礎から確認ワークルール(10) －「有期雇用契約」・「雇止め」の基礎知識－……………	矢吹 徹雄、高橋 和征……………	20
会員のひろば……………	藤川 幸司、塩塚 実 新明 史江、西川 浩司、町田 卓郎、平山 繁樹、石井 良直、和田 哲治、井上誠士郎 西部 ひな、石黒 俊哉、草薙 鉄也、沖 潤一、小村 博昭、関谷 千尋……………	22
ポラリスを仰ぐ北の大地から……………	小林 正司、田中 実……………	32
大通公園を望む窓辺から……………	北野 明宣、千葉 茂……………	33
日本医師会生涯教育講座等開催情報……………		34
中央 34 道南 34 日胆 34 空知 35 道北 35 北見 35 道東 35 その他（学会・医会・研究会等） 35		
日医認定産業医制度研修会開催一覧……………		38
日医認定健康スポーツ医制度再研修会開催一覧……………		38
新規指定医療機関……………		39
訃報……………		40
道医の動き……………		41
会議室／第4回理事会、第15・16回常任理事会……………		42
売貸医院・医師招聘情報……………		46
道医師国保の頁……………		50
コーヒブレイクMedico's Column……………		56
季節風／北海道で継承していくもの～歴史から学び何を伝えるか……………	藤井 美穂……………	58
お知らせ		
平成30年秋の叙勲・褒章受章者（北海道医師会会員）⑦／北海道医師会は、北海道に在住するすべての医師が利用できる女性医師等支援事業を推進しています。⑪／平成30年度かかりつけ医認知症対応力向上研修⑬／北海道医報年間購読のご案内⑮／理事長および院長へのお知らせ 胆振東部地震災害に係る被害および防災対策に関する調査の実施⑰／会員優待サービスのご案内⑲／第24回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会のご案内⑳／研修会等への託児サービス併設費用の助成㉑／医師招聘に掲載をご検討中の医療機関の皆様へ㉒／稚内市からのお知らせ㉓／グループ保険のご案内㉔		

北海道医師会会員数 8,364名 (+3) うち日本医師会会員数 5,863名 (+6)
A 2,443名 (+1) B2 4,671名 (+3) C2 131名 (-1)
B1 619名 (-1) C1 99名 (-1) C3 401名 (+2)
平成30年10月31日現在 () 内前月比

作品紹介

さかや こさぶろう
酒谷 小三郎 時計のある静物

1895（明治28）年～1957（昭和32）年
函館生まれ。
制作年不詳。油彩・キャンバス（77.7×77.5cm）。

酒谷小三郎は、函館の商家に生まれた。東京の川端画学校で学ぶが、函館に戻り家業を継ぐ。様々な企業や団体の重職も担い函館経済界で活躍した。家業に就きながら画家としても活動を続け、赤光社や道展に出品したのち、大正15年第7回帝展初入選。道内はもとより、中央画壇でも活躍した。戦後、鎌倉に転居してからは日本画に転向し、制作を続けた。

北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立函館美術館
（函館市五稜郭町37番6号 0138-56-6311）

本名のほか、「黒田山洋」、「大聖寺古郷」の画号でも知られる。

時計や鍋の蓋などの金属器の輝き、ガラスの透明感、魚の焼き加減、テーブルクロスの子地の厚さなど卓越した技術でモチーフの質感を表現している。

また、品のある洗練されたデザインの食器から当時の裕福な暮らしが想像できる。大きい鍋や赤いテーブルクロスで温かさを、大皿の2匹の魚と2つのナイフ、八角鉢に盛られた3つの赤いリングで家族が揃って食卓を囲む様子が伝わる。大きく描かれたゼンマイ式壁かけ時計は、大切な家族とのかけがえの無い一家団らんのひとつときの象徴である。